

# 協賛事業一覧

令和2年9月15日(火)～12月13日(日)  
美馬市内各所



美馬市文化祭協賛 硬式テニス大会



12世将棋名人小野五平翁徳島県小中学生将棋大会



第15回カローリング交流大会

文化・芸術関係

開催日	事業名	開催場所
10月24日～10月25日	身近な薬草展	JA美馬ふれあいセンター
28日～11月5日	第55回美馬町菊友会菊花展	美馬町林照寺
30日～11月5日	脇町菊友会	美馬市地域交流センター前(ミライズ)
31日～11月1日	いけばな展	美馬町寺町防災交流センター
11月1日	12世将棋名人小野五平翁杯徳島県小中学生将棋大会	安楽寺(脇町)
3日	三味線もちつき	脇町うだつの町並み
8日	日舞発表会	脇町劇場オデオン座
11日	美馬市文化祭囲碁大会	郡里地域活動センター
15日	第10回美馬市能楽教室発表会	安楽寺能舞台(美馬町)
29日	秋の新舞踊発表会	美馬市地域交流センター(ミライズ)
12月13日	Halau Hula O Kolopua Mai Ka Lani Ho'ike ハワイヤングダンス教室発表会	美馬市地域交流センター(ミライズ)

スポーツ関係

開催日	事業名	開催場所
9月15日～9月25日	令和2年度美馬市文化祭協賛ソフトボール大会	脇町中学校グラウンド
28日～10月16日	美馬市文化祭協賛 社会人野球大会	江原・脇町中学夜間グラウンド
10月18日	美馬市文化祭協賛 硬式テニス大会	うだつアリーナ南側テニスコート
20日	パークゴルフ交流大会	吉野川河畔ふれあい広場パークゴルフ場
20日	グラウンド・ゴルフ大会	美馬市民グランド
11月8日	美馬市文化祭協賛 パークゴルフ大会	吉野川河畔ふれあい広場パークゴルフ場
8日	美馬市文化祭協賛 ゲートボール交流大会	美馬橋ゲートボール場
12日	コムスポグラウンド ゴルフ交流大会	井口谷コート
15日	第15回 カローリング交流大会	美馬中学校体育館
15日	池月ティーボール大会	美馬市民グランド
15日	うだつコムスポソフトバレーボール秋季交流大会	うだつアリーナ
15日	美馬市文化祭協賛事業 グラウンドゴルフ大会	美馬市穴吹グラウンドゴルフ場
29日	小学生バレーボール美馬大会	うだつアリーナ
29日	美馬市文化祭協賛事業 合気道演武会	脇町中学校 武道場
12月5日	第16回美馬市文化祭協賛 ソフトテニス大会	穴吹スポーツ広場テニスコート

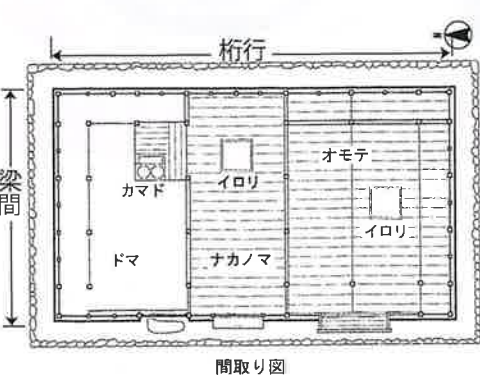
身近な文化財

国指定重要文化財建造物  
旧長岡家住宅



旧長岡家住宅は、美馬市脇町西大谷の阿讃山地の中腹に建てていた農家を昭和五十四年(一九七九)に現在地へ解体移築したものである。

この住宅が国の重要文化財に指定されたのは四国北部における山村農家の代表的な間取りで、消滅の恐れがあり保存が必要なことからである。大きさは桁行十二m、梁間六・六m(間取り図参照)の上屋に四周半間の下屋を廻らして



いる。平入りで寄棟造(四方から屋根を作っている)かや葺で大屋根を軒先まで低く葺きおろしている。天井より棟札が見つかっており、時代は江戸時代の享保二十年(一七三五)に建てられたことが確認された。正面に向って左側に入口である大戸口があり、各部屋の正面に開口部があり、他の三方はすべて大壁と呼ばれる土壁で窓などはない。間取りは横二間取りで、土間とナカノマ・オモテがあり、土間は床板をはずさず、三和土(土とにがりと消石灰を粘って固めたもの)で仕上げられており、カマドが設けられている。ナカノマは居間であり、床板張り、東側にイロリが付けられている。

オモテは客間であり、床板張り、正面奥には床を一段上げて仏壇と神棚が設けられている。中央にはイロリが設けられ、天井は竹を編んだ上に笹を敷き、その上に土をのせた大和天井と呼ばれるもので防寒防火の役割をもつ天井である。昭和五十一年(一九七六)五月二十日に指定され現在に至っている。なおこの住宅の所在は、県道鳴門池田線を拝原から西へ向かって行き、脇町猪尻のローソン店のすぐ東側の北へ向かって上る坂を登り、脇町中学校グラウンド南側の道をすぎると、最明寺があり、右に曲がると八幡神社の手前にある。



敷地屋兵助(半田村小野の商人、塗物・小間物・米麦・ぞうり。わらじ・その他荒物を商う)が見聞し記録した『兵助日記』に岩倉村小星の「新四国霊場」の記録があります。

この「新四国霊場」は、「小星山金剛寺・本堂大師堂」のひょうたん山と呼ばれている裏山にあります。この霊場の創設については地元大倉家に次のような口伝があります。文政年間、先祖に広次という人がいました。妻が若死し子どもも次々病死して、家業も思わしくなくなり、そこで、一念発起、お四国様を巡りました。そして供養のため霊場の土を持ち帰り、新四国霊場の創設



(金剛寺本堂 大師堂)

之新四国様流行し候。阿讃数万参詣、且此御四国之義、十ヶ年以前二勸請いたし有之也

を発願しました。八十八体の建立された「舟形光背石仏」には、番号と寺院名、半肉彫りの本尊が写されています。さらにその下部には願主の人名や講名が刻まれています。願主で一番多いのは当所と刻まれた小星や近辺の集落の人々ですが、美馬郡北部の村々にも広がっています。遠くは十六番に名西郡高畑村(石井町)六十五番に足代村(東みよし町)もあり信仰の広がりを感じます。四国遍路の全行程は約一四〇〇km、徒歩で巡るとなれば四〇日から五〇日はかかるといわれています。この時代の人々は土地にしばらくは、経済的にも時間的にも八十八の霊場を巡礼することは困難を伴いました。その上、病による行き倒れの危険もありました。それだけに、手軽に巡れる新四国霊場の創設はありがたく感謝され、石仏が建立できた願主達の喜びと誇りはいかにばかりかと思われまします。金剛寺の境内には、文政十一年(一八一八)に建立された巨大な弥勒菩薩の坐像があります。



(入口)

立派な大師堂と弥勒菩薩、そして新四国霊場、三つがそろったこの地は、阿波西部の最もありがたい霊場として人々の信仰を集めました。縁日には、地元は勿論遠くからの参拝者も絶えなかつたとのこと。真楽寺住職宮武氏によると、「お賽銭がいつばいで、カマス二杯になり馬の背中に振り分けて運んだ」との言い伝えがあるそうです。

『兵助日記』の記述通りの言い伝えです。現在は、かつての賑わいはありませんが、新四国霊場は小星を中心とした人々の信仰に支えられ、美しく整備されています。

平成年間に建てられた小さな木製祠の中から、石仏は拝む私たちを見守ってくれています。「私が建てたんだよ」一つ一つの祠には、建立者の名前が誇らしく記されています。

参道は歩きやすく手入れさ

れています。道標もあり、迷うことはありません。「一周八〇〇m」の標識もあり、初めて参詣する人々の不安も解消されます。整備された地元の人々の思いやりがうれしく感じられるコースです。

小星公園からの参拝をお勧めします。入口には「三二四国八十八ヶ所参道入口」の案内板があります。

コースの中頃に「小星山金剛大師堂」があります。大師堂は総檜造で、四面の壁には見事な彫刻が施されています。合わせての参拝をお勧めします。

新四国霊場、大師堂と小星公園。小星公園には大型遊具も設置されています。三つ合わせて、半日十分楽しめる信仰と娯楽のコースです。最後に、美馬市に設立されている三二四国霊場を一覧表にまとめました。



(八十八番札所 大窪寺)

四国遍路の研究(鳴門教育大学2003年3月)参照

美馬市の三二四国霊場

名称	設置場所
小星新四国霊場	岩倉小星・金剛寺裏山ひょうたん山一周
江原新四国霊場	江原町全域と北庄の一部
新四国八十八ヶ所霊場	脇町西田上・真楽寺裏山一带
新四国八十八ヶ所霊場	脇町大滝山・大滝寺本堂横
荒川新四国	美馬荒川・光明院裏山一带
願勝寺お砂踏み所	美馬願勝寺・願勝寺境内
古宮新四国	古宮・古宮一带
新四国八十八ヶ所	穴吹戎・享保寺裏山一带

第十六回 文化講演会

演題 「挑戦する心」  
講師 柔道家

オリピックメダリスト  
篠原信一氏



十一月十四日、第十六回美馬市文化祭文化講演会が、地域交流センターミライズで開催されました。講師には、柔道家でシドニー五輪百kg超級銀メダリストの篠原信一氏をお招きし、「挑戦する心」と題して講演いただきました。講演前には、後に世紀の誤審と語り継がれる二〇〇〇年シドニー五輪百kg超級決勝の映像が流れ、惜しくも金メダルを逃したシーンが映し出されました。そして、大きな拍手とともに篠原氏が登壇され講演がはじまりました。

篠原氏が柔道を始めるきっかけは中学一年生の時に、体が大きかったため、先生に入部を勧められ始めたようです。高校では、先生が怖くて柔道も高校も辞められないまま練習を続けていた力がついて勝てるようになり柔道が面白くなったそうです。そうして高校三年生の時に全国大会でベスト十六に入り、先生の勧めで無理やり天理大学に進学するようになったことなど、ユーモアを交えながら話してくださいました。

毎日の厳しい練習が嫌で、柔道を辞めたいと思った大学生時代でしたが、同級生全員が辞めずに卒業できたのは、仲間同士で励まし合い助け合ったから最後まで頑張りきれたようです。そして

一九九九年バーミンガム世界柔道選手権で、百kg超級と無差別級で金メダルを獲得し、翌年のシドニー五輪では金メダル候補として出場しました。講演前の映像で流れた、フランスのドゥイ工選手との決勝戦では、自分が一本を決めたと思いましたが、審判には判定されず、試合が続行されました。その瞬間百%あつたやる気と集中力が途切れ、もう一本取りに行こうという気持ちが持てなかつたことを話してくださいました。

そして「心技体」という言葉の通り、技と体を鍛えていても、その時の気持ち(まごころ)が0なら、何をかけても0にしかならないこと、心と技と体が一緒でないと、自分の持っている力を出し切ることができないことを、自身の経験をもとに話してくださいました。

本当なら、つらい過去の経験ですが、篠原氏の持ち前の明るさで、苦い経験を面白く話してくださいました。会場には柔道着を着て参加してくれたスポーツクラブ少年団やその他小中学生もおり、世界で活躍された篠原氏のお話を真剣なまなざしで聞き入っていました。明るい性格の篠原さんの講演は、会場内を笑顔にしてくださいました。また勇気を与えて下さる楽しい講演会でした。



(昭和二十年代)

あ  
の  
頃、  
今

# 懐かしい学び舎

## 宮内小学校

穴吹川を河口から上流へ約一〇km上ると、「宮内」という集落がある。ここに旧宮内小学校の校舎が建っている。

「穴吹町史」によれば「宮内」という地名は仁賢天皇の時代(四八五〜四九五年)に神明山に社殿が建てられたときから呼ばれるようになったといわれている。

仁安元年(一一六六)この地に平安時代末期の武将源為朝によって白人神社が建てられたと言われている。為朝は剛弓の使い手で剛勇無双と謳われ「鎮西八郎」の呼び名を持つ。源頼朝、源義経の叔父である。

この時から「宮内」は神域となり、御饌田(お供え用の水田)や射場の窪(矢を射る所)などが置かれた。宮内小学校はこの御撰田があった場所に建てられている。

そのドラマチックな生涯から各地に伝説が残る源為朝は、この地にも幾多の伝説を残し語り伝えられてきた。その言い伝えは宮内小学校の校歌にも登場する。

宮内小学校の起源は、明治十九年(一八八六)十月十九日とされている。この年いわゆる

「学校令」が公布されたことにより「宮内簡易小学校」として開校した。学級編成は二学級で当時は民家を借り受けて授業を行っていた。

開校当時の児童数は不明だが、開校七年目の明治二十五年(一八九二)の児童数は一〇一人と記録されている。児童数はこの後増加をたどり昭和二十二年(一九四七)には五七八人まで増えている。

これ以降、経済成長に伴う産業構造の変化に加え、昭和五十年(一九七五)代の台風災害などもあり、地域の人口、児童数が減少していく。そういった中で昭和六十年(一九八五)に創設百周年を迎え、さまざまな記念事業が行われた。

その年発行された「宮内小学校百年史」には、山道での通学に苦労したことや、穴吹川での水泳授業、金世帯が参加する運動会の様子、ストーブの炭火を入れた箱で弁当を暖めて食べたことなど、卒業生それぞれの思い出が寄稿されている。

それから二十七年後の平成二十五年(二〇一三)、宮内小学校は休校となり一二七年の歴史に幕を下ろした。送り出した

卒業生は三六九二人であった。学校は現在、校舎の一部が「宮内交流の里」として改修され、地域のコミュニティ拠点として活用されている。かつての運動場には芝生が張られ、ドクタ―ヘリが発着する。さらに消防団穴吹方面対第四分団の詰所が整備され、地域の防災、安全の拠点ともなっている。

少子高齢化や人口減少に伴い、休校する学校が増加している中で、宮内小学校もその例外ではなかったが、休校後も単に朽ちることなく地域の中で新たな役割を果たしている。

### 宮内小学校校歌

作詞 宮野 銀水  
作曲 梶田嘉代吉

一 朝日の色に 染む緑  
登む川の面に 映る月  
眺めつきせぬ 天然は  
わが学舎を 飾るなり

二 平治の昔 為朝の  
弓弦のひびき 今もなお  
白人神の 名と共に  
栄えある邑を 飾りけり

三 げにうるわしき 学舎よ  
縁も深き わが園よ  
いざや勉めん もろともに  
いざや励まん もろともに

●子どもの目●  
わたしたちの  
ふるさと

江北の安全守るんジャー  
江原北小学校



江原北小学校の「炭づくり」の始まりは約十二年前にさかのぼります。当時、私達の学校は地域安全マップ（防災マップ）を総合的な学習の時間を利用して作成していました。作成途中で、校区内に危険箇所（土砂崩れ等）が多いことに気づきました。その原因を調べていくと、森林の手入れができていないために山が荒れてきたということが分かりました。

そこで、「森林の手入れをするためには、木材をもっと利用



する必要がある。」と考え、間伐材の有効利用として「本立て」を作っていました。しかし、「本立て」ではたぐさんの間伐材が利用できないと悩んでいたところ、地域の方から「間伐材を多く使うには炭づくりがいい。しかし、間伐材をただ利用するだけでなく、山は木を切らないと元気がならない。」という助言をいただき、山を手入れし、地域の安全を守るための間伐体験と炭作りが始まりました。

間伐体験

毎年十一月末に地域の方のご協力を得て間伐体験を行います。今年、三年生から六年生まで十六人で炭製品を作っています。消臭パック、炭ピンチ、木酢などを作っています。今回作ったのは消臭パックです。砕いた炭をはかる、袋に入れる、リボンをつける、ラッピングをするグループに分かれて作りま



炭製品作り

かかなり急な斜面での間伐で慣れないながらも一生懸命に木を切り出します。間伐材は総合的な学習の時間の炭作りの材料となります。山の環境を守るためにも間伐は欠かせないものであり、間伐の意味も学習しつつ、木を切り出して、枝を払い、適当な長さに切る作業を体験しています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で運動会の合間に参加された方々に販売しました。今までは八月に総合的な学習の時間で作成した炭製品を夏子いなか市で販売をさせていただきました。最初は呼び込みをする声も小さかったのですが、製品が売れるにつれ声も大きくなり積極的に江北の炭の良さを説明できました。販売に協力してくれる夏子いなか市のスタッフのみなさんには本当に感謝しています。



夏子いなか市販売体験

した。砕いた時にでる炭の粉で、手や顔が真っ黒になりました。が販売する日が楽しみです。

江原北地区では毎年十一月上旬に「敬老会」を開催しています。いつもは約六十名の方が出席されます。その中で、オーピングに幼稚園児の子たちが歌と踊りのプレゼントをし、次に私達が鼓笛演奏をしています。続いて二名が作文を披露し、最後は総合的な学習の時間に作った炭製品を皆さんにプレゼントしています。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で開催されませんでした。九月に地域のお年寄り約一四〇名の方に炭製品をお送りしました。いつまでもお元気で長生きしてください。



敬老会

# 令和2年度 美馬市文化協会登録団体

分野	団体名	代表者氏名
文芸	俳句ひまわり会	藤本 宏
	脇町漢詩教室	藤本 宏
	穴吹古文書勉強会	三宅 武夫
美術	美馬町趣味の会書道部会	山西実知代
	線美会	青木 博美
	拝原墨絵教室	滝川 京子
	水墨画美馬教室	田口 哲
	パステルアート部(warehouse)	八木 理恵
	穴吹ビデオ教室	上原 芳明
	写真クラブ目	大崎 憲一
	木屋平カメラクラブ	阿部 義則
	穴吹陶芸教室	蔭山 郁代
	美馬陶芸クラブ	加藤 一幸
	木屋平陶芸クラブ	廣瀬 文代
	穴吹木彫教室	竹田 勝一
	穴吹藤工芸	先山 晴美
	伝統文化親子教室細川流盆石徳島支部 脇町こども盆石教室	阿部 巍
	美馬和傘製作集団	住友 聡
	みどりの会	三笠アイ子
	押し花アート 夢あそび	坪本 淑子
	キルトサークル『どんぐり』	森本 明美
	なでしこ	安永 町枝
	美馬里工房	長江 貞
園芸	美馬市盆栽趣味の会	高田 定幸
	草景クラブ	梯 勲夫
	美馬町菊友会	藤田 陽子
	脇町菊友会	森本繁太郎
	若月流ときわ会	中川 賢知
	若竹会	松永美和子
	桜之会(おおしかい)	田辺 光子
	美馬市民舞愛好会(岩倉・江原・穴吹)	木村 淑江
	高齢者民舞教室	岩本さよか
	猿若流日本舞踊紅の会	大上 由子
舞踊	和の会(なごみのかい)	竹田美智子
	瑞穂流舞踊教室花美ざき会	田中 久也
	瑞穂流舞踊教室脇町翔の会	田中 久也
	寿鶴の会	藤田 混平
	寿の会	藤田 混平
	桜芝ノ会(おおしかい)	田鍋 賀子
	高瀬霊城会(たかせれいじょうかい)	阪本 眞弓
	宝寿会	南 静子
	江原南女性会	滝川 京子
	フォークダンス会	山口美智理
ダンス	Halau Hula O Kolopua Mai Ka Lani ハワイアンダンス教室	岸本あけみ
	Halau Hula O Kolopua Mai Ka Lani Ains ハワイアンダンス教室(アイナ)	岸本あけみ

分野	団体名	代表者氏名
ダンス	Laulea Hula Studio ラウレアフラスタジオ	山本 愛子
	Happy Hula Studio脇町ビューティー&ピカケ	篠原ゆかり
	モアナ・タヒチ	高居 弥生
能楽	美馬能楽教室	櫻間 幸次
	杵屋敦の会	田中 敦子
和楽	きぬの会	猪尾美恵子
	三島大正琴クラブ	廣長ヨシ子
	穴吹清流クラブ	渡邊 保子
	琴修会	小野 俊昭
	八千代大正琴	山西みちよ
	和奏会	猪尾美恵子
	美馬マンドリンクラブ	牧田 史子
	オカリナグループそよかぜ	三笠アイ子
	(一社) 哲泉流日本吟詠協会脇町支部	篠原 脇泉
	(公) 関西吟詩文化協会景和会穴吹支部	尾下 直代
(公) 関西吟詩文化協会景和会脇町支部	椎江 清文	
音楽	あなぶき童謡の会	中島みどり
	フレンズ女声コーラス	前野ツタエ
	クレイブマートル美馬	眞鍋 美香
	半田歌謡	大西 幸子
	三味線もちつき保存会「井内組」	井内 春行
	三味線もちつき保存会「うだつ」	香西 俊幸
	三味線もちつき保存会「きたざき組」	北崎 栄一
	華道千家古流幻華会脇町教室須美社中	須見 力
	未生流笹岡	阿部 嘉子
	華道嵯峨御流	藤本 光甫
文化財	ヨーロピアンフラワーアレンジメント	石田 朋子
	美馬市囲碁同好会	前田豊太郎
	脇町ライオンズクラブ(将棋)	南 恒生
	太極拳 美馬教室	中川奈良子
	脇町太極拳教室	三宅 慶子
	日華里太極拳脇町教室	梶谷千加子
	合気道徳志館	井川 望
	徳島県柔道協会脇町支部	佐藤 賛治
	徳島県シルバー大学校美馬校OB会連合会	丸石 勇
	(公社) 日本3 B体操協 美馬グループ	曾我部早苗
その他	韓国料理教室	藤川 逸子

## お知らせ

※各団体では、会員を募集しています。興味のある方はお気軽にご連絡ください。

また、美馬市文化協会への登録も常時受け付けています。会費は1団体1,000円、個人一人100円です。

お問い合わせ先…美馬市教育委員会地域学習推進課まで  
電話:0883-52-8011

## 令和2年度 美馬市文化協会役員名簿

役職	氏名	役職	氏名
顧問	佐藤 一夫(脇)	理事	香西 孝史(脇)
会長	小林 一郎(脇)	〃	逢坂 俊男(美馬)
副会長	藤本 孟司(脇)	〃	西前 清美(美馬)
〃	青木 博美(美馬)	〃	藤田 陽子(美馬)
〃	上原 芳明(穴吹)	〃	前田豊太郎(美馬)
〃	阿部 義則(木屋平)	〃	櫻間 幸次(穴吹)
理事	森本 明美(脇)	〃	渡邊 保子(穴吹)
〃	尾方 隆子(脇)	〃	三宅 武夫(穴吹)
〃	滝川 京子(脇)	〃	廣瀬 文代(木屋平)
〃	藤本 宏(脇)	〃	休石フジカ(木屋平)
〃	佐藤 達郎(脇)	監事	眞鍋 美香(美馬)
〃	木村 淑江(脇)	〃	三笠アイ子(穴吹)
〃	佐藤 賛治(脇)		

## 美馬市文化協会会報「いななき」編集委員

職名	氏名	担当地区	職名	氏名	担当地区
委員長	逢坂 俊男	美馬	委員	三宅 武夫	穴吹
委員	松永 住美	脇	〃	緒方 利春	穴吹
〃	大塚 善文	脇	〃	藤本 高次	木屋平
〃	宮田 英治	美馬	会長	小林 一郎	

### ◆編集後記◆

会報第16号をお届けします。本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、文化活動が制限され、手洗い消毒、マスクの着用が徹底されるなど、今までとは違った生活様式が生まれました。

今まで当たり前に出ていたことが出来ないことや、人との接し方に距離を取ることも、コロナウイルス感染症に振り回された一年間でした。文化研修会も県外研修は中止。代わりに美馬市内の文化施設を廻るスタンプラリーを行いました。改めて身近な文化や文化財に触れることができ、新しい発見ができたのではないのでしょうか。

今後も美馬市文化協会は、文化の継承と文化の発展に努めて参りたいと思っています。